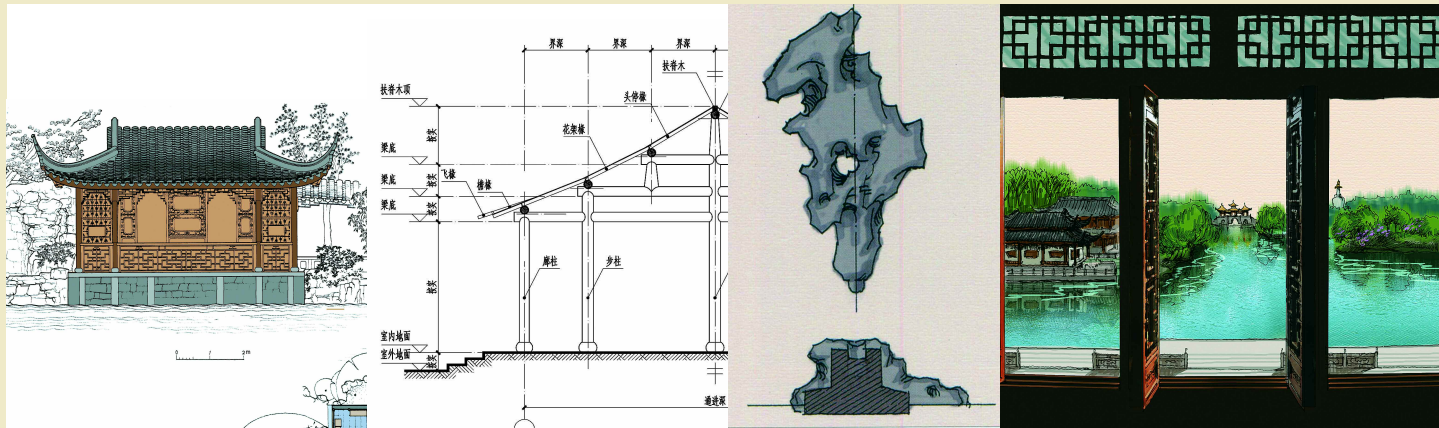




A 4 判上製／カバー装／オールカラー・416頁（予）
●定価：本体26,000円＋税 ISBN978-4-8433-6428-4 C1070



ゆまに書房 YUMANI SHOBOU
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6
TEL. 03 (5296) 0491
FAX. 03 (5296) 0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail: eigyoku@yumani.co.jp

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	中国古典庭園 園冶図解		取扱店
	定価：本体26,000円＋税 ISBN978-4-8433-6428-4 C1070		
お名前			
ご住所			
TEL ()			

造園理論書のバイブル
『園冶』初の図解を翻訳
中国古典庭園 園冶図解
えんやずかい

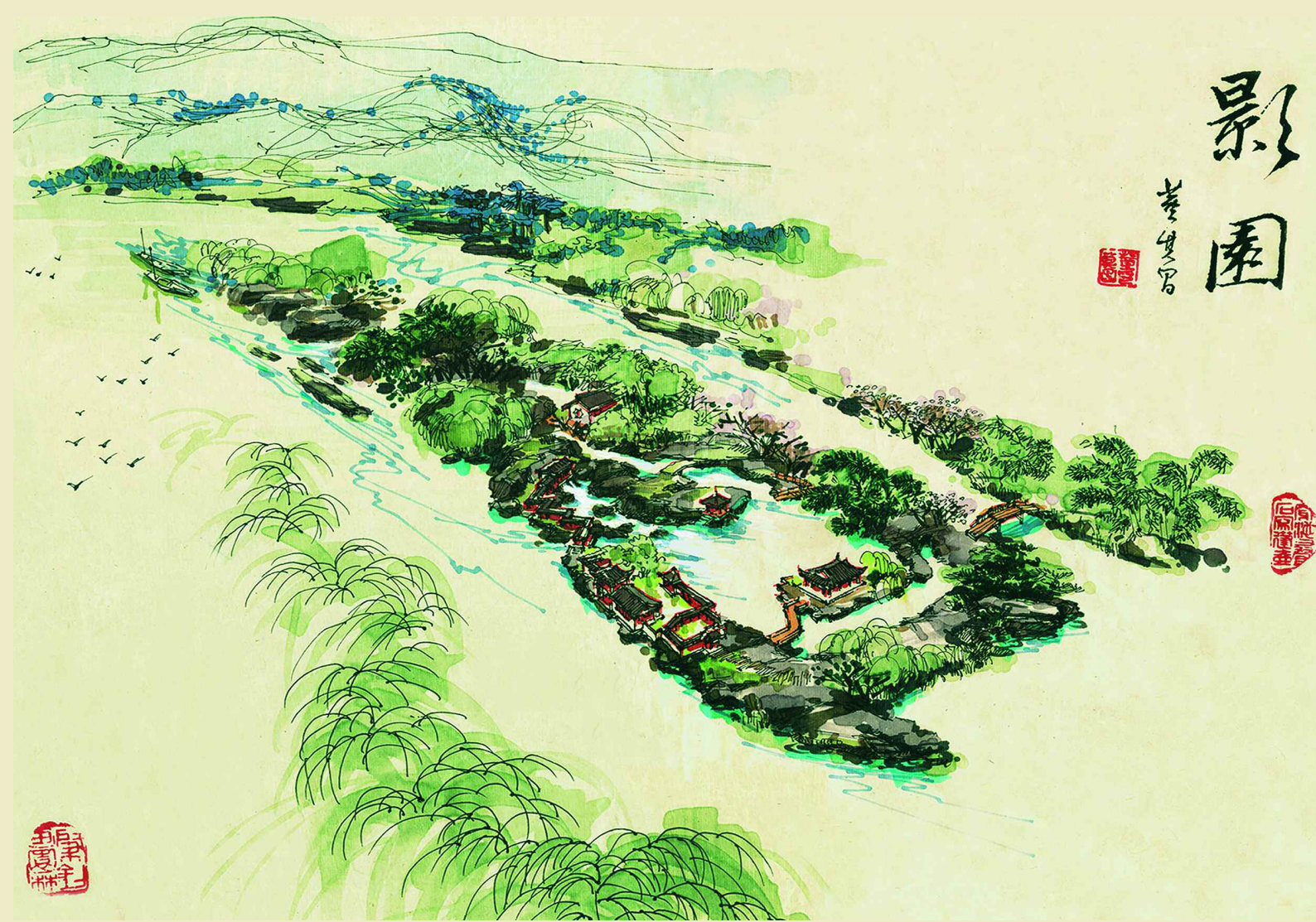
●.....刊行予定.....●
2023年1月下旬

王羲之王獻之書法全集 全18巻
【監修】故宮博物院 ●揃定価：本体498,000円＋税 ISBN978-4-8433-4758-4
中国内外の收藏機関の作品・資料148件を原寸大・オールカラーで収録した決定版。

中国古典庭園
園冶図解
Classical Chinese Gardens Explained

【著】**呉 肇釗** 中国造園家
【監修】**高橋知奈津** 奈良文化財研究所主任研究員
【監訳】**李 暉** 【翻訳】**岩谷季久子**

中国最古で最高の造園専門書『園冶』を初めて図解



発行：科学出版社東京／発売：ゆまに書房

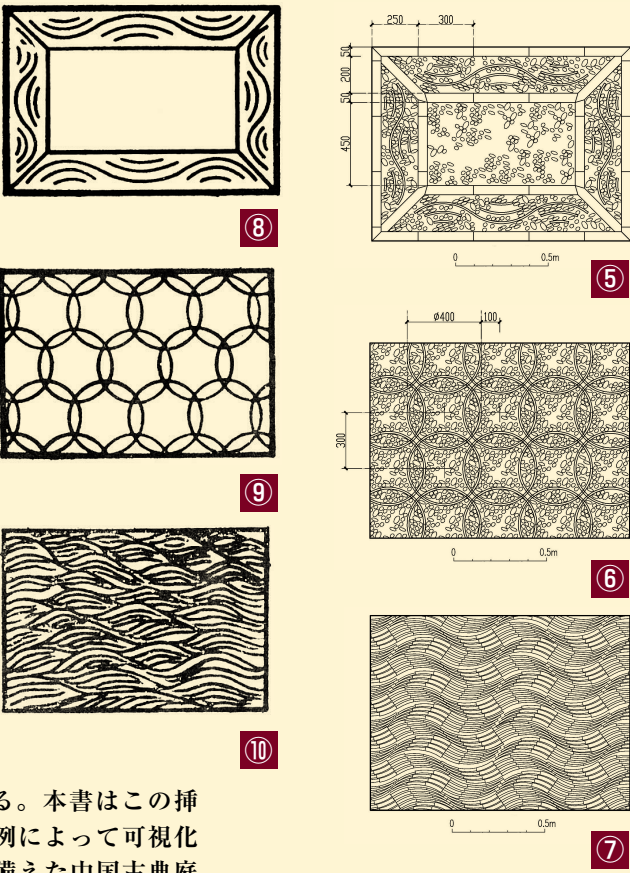


【特色3】中国古典庭園の教科書に最適

『園冶』原書も後半の建築・庭園の装飾の解説では夥しい数の挿図がある。本書はこの挿図を現代の図面として示すとともに、前半の造園論を実在する庭園の挙例によって可視化することで『園冶』の分かりにくさを解消。理論書と実践ガイドを兼ね備えた中国古典庭園の教科書という地位が鮮明に。

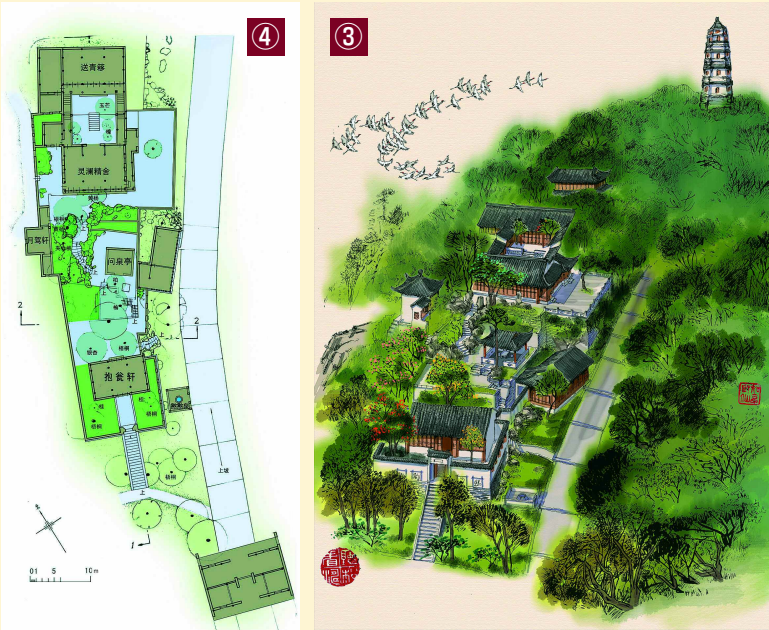
【特色4】中国古代庭園常用スケッチ219点を収載

自らの庭園の絵を描くことで「詩情画意」の真髄が体得できると考えた著者は、中国古典庭園を学ぶ者には国の内外を問わず大いに伝統庭園のスケッチを描いてもらいたいとの願いから、世界各地に造園した自作の中国古典庭園のスケッチを練習画の参考に供している。



※『園冶』の図面（⑧～⑩）を現代の図面（⑤～⑦）として示す。

※⑪＝著者による伝統庭園内外のスケッチ。

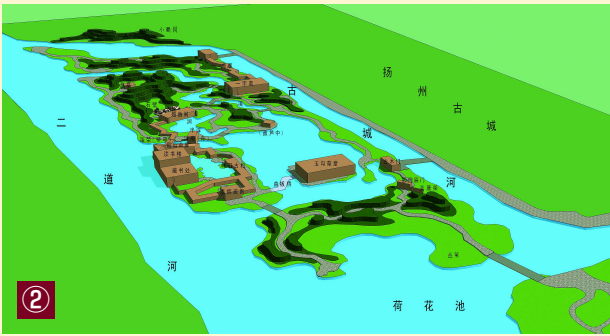


【特色1】造園の第一人者による『園冶』を図解

明代の造園家・計成が著した造園論『園冶』。中国庭園史上の重要な古典文献として今なお圧倒的な地位を誇り、近年はその立地環境を重視する造園思想に注目が集まる『園冶』の内容を、中国造園の第一人者で、計成が造園した「影園」等、歴史的庭園の復元設計の経験が豊富な呉肇釗氏が『園冶』の章立てに即して丁寧に解説する。

【特色2】これまでの園冶解説書と一線を画すアプローチ

明の文人特有の筆致で詩文のように綴られた『園冶』。本書は、現存する庭園の実景を描いたスケッチや平面図を付すことで可視化を試み、さらに「園説」「借景」では山水画を用いて一句一句読み解く。解説のために収載した挿図は1000点超。



刊行のことば

中国造園家による『園冶』の図解

本書は原題『園冶図釈』の日本語版である。『園冶』は、明代の造園家・計成が明・崇禎七年（一六三四）に著した三巻からなる造園論で、日本には江戸時代に持ち込まれ明版と呼ばれる版本が残る（旧紅葉山文庫本、国立公文書館蔵）さらに『奪天工』という別名で、寛政七年（一七九五）の写本が残されているほか、『木経全書』という名でも流通したことが知られている。造園学の専門家の間では「借景」について言及した書物として有名で、これまでも日本人研究者による解説書が複数刊行されているが、本書『園冶図釈』のように本文中に図を付して説明したものは無かった。

著者の呉肇釗氏（一九四四～二〇二二）は、長年にわたり、中国古典園林史の思想と技術に基づいて造園実践をおこなってきた造園家で、計成が揚州に造った庭園「影園」をはじめ、数々の中国古典庭園の復元設計を指導されている。本書では、『園冶』の内容を計成の実践の総括であると位置つけた著者が、『園冶』本文の内容を読者にわかりやすく伝えるため、現存する江南地方の庭園を参考に絵を描き、解説の付図として示された。そのため、読者は実際に基づくイメージを通じて『園冶』の内容をより具体的に理解することができる。

『園冶』は、造園理論の専著でありながら、理想的な庭園景観を詩文のように綴る。これまでの日本語での『園冶』の解説書では、技術書であるという側面が強調されてきたために、詩文のように書かれた部分を美辞麗句とし排除する傾向にあった。しかし今回、漢詩文に明るい宮下和大氏の協力を得、中国文化に係わる翻訳に通じた岩谷季久子氏、中国建築史研究者の李暉氏と共に原文を検討する中で、まさにその美辞麗句にあらわれた「詩情画意」の思想こそ、著者の呉氏も強調する中国造園の特質であり、『園冶』を解説する際に不可欠なものであるという思いに至った。そこで本訳書の『園冶』原文は、古典としての文体を残した書き下し文として示すこととした。また、造園や建築の専門用語や、固有の人物や名称については、通読の妨げにならない程度に訳注として付すこととした。

本書が中国庭園の理解への手助けとなり、また現代の造園設計の参考となれば幸いである。
（文責・高橋知奈津）

●目次から

本書について
刊行に寄せて (1)
刊行に寄せて (2)
前書き (一)
前書き (二)

【園冶】治叙——阮大鍼
【園冶】題詞——鄭元勳
【園冶】自序——計成

興造論

園説

一、相地

(一) 山林地
(二) 城市地
(三) 村莊地
(四) 郊野地
(五) 傍宅地
(六) 江湖地

二、立基

(一) 厅堂基
(二) 樓閣基
(三) 門樓基
(四) 書房基
(五) 亭榭基
(六) 廊房基
(七) 假山基

三、屋宇

(一) 門樓
(二) 堂
(三) 齋
(四) 室
(五) 房
(六) 館

(七) 樓

(八) 台

(九) 閣

(十) 亭

(十一) 榭

(十二) 軒

(十三) 卷

(十四) 廊

(十五) 五架梁

(十六) 七架梁

(十七) 九架梁

(十八) 草架

(十九) 重椽

(二十) 磨角

(二十一) 地窗

(二十二) 屏門

(二十四) 仰塵

(二十五) 戶櫺

(二十六) 風窓

(二十七) 欄杆

(二十八) 欄杆圖式

(二十九) 門・窓圖式

(三十) 牆垣

(三十一) 白粉牆

(三十二) 磨磚牆

(三十三) 漏磚牆

(三十四) 亂石牆

(三十五) 鋪地

(三十六) 亂石路

(三十七) 鸞子路

(三十八) 冰裂路

(四) 諸磚地

磚鋪地圖式

九、掇山

(一) 園山

(二) 厅山

(三) 樓山

(四) 閣山

(五) 書房山

(六) 池山

(七) 内室山

(八) 峭壁山

(九) 山石池

(十) 金魚缸

(十一) 峰

(十二) 巒

(十三) 岩

(十四) 洞

(十五) 澗

(十六) 曲水

(十七) 瀑布

十、選石

十一、借景

付録

中国古典庭園常用スケッチ集

参考文献

後記

謝辭

翻譯參考文獻

【園冶】原文の校勘

中国庭園・建築用語解説

日本語版監修者のことば

日本語版監訳者あとがき